

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」尾張旭校		
○保護者評価実施期間	6年 11月 1日		6年 12月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	6年 11月1 日		6年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	6年 12月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導員の専門性を活かした支援を行っている。 利用者一人一人の特性を考え、何を補い何をしたら良いかを常に考え、一人一人に合った支援をしている。	毎朝にのミーティング実施時に可能な限り職員が参加し、常に『利用者優位』『この子に何が必要か、何をしたら良いかを考えよう』と繰り返し伝えている。	特性を熟知して上で、更なる成長に繋げるための支援内容などを職員全員で考えていく。
2	保護者からの相談事等に助言を行っている。	最近の様子を聴いたり、保護者の負担が重くなっていないかを来校時や支援中の待ち時間などに声掛けをしている。	全員の保護者に行き届いていないため、よりきめ細やかに声掛けを行っていく。
3	利用者が楽しく支援を受けられるように、指導員との関係性の構築に力を入れている。	利用者がきらりに行きたいと思って貰えるように心がけている。楽しいだけでなく、成長に繋げていける支援を行っている。	特性を熟知して上で、更なる成長に繋げるための支援内容などを職員全員で考え、吸収率の良い支援を心がけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や地域との交流が少ないため今後、機会を増やしていく。	地域の夏祭りに職員全員で参加している。市開催の連絡会には児発管のみが参加している。指導員同士の交流は現在は無い。	併用している利用者がある事業所との連携を密にし、支援内容に活かして行く。
2	保護者同士の情報交換の場がない。ママカフェや保護者同士が交流できる機会を設ける。	特性についてや学校などの共有できる事柄があると保護者の安心感や負担感の軽減に繋がると思う。	職員の負担にならない範囲で保護者同士の交流の場を設け、情報交換できることで安心感や日常生活の安定に繋げる。
3	防災、感染などに関して、職員にのみの活動になっている。保護者や利用者を巻き込んで周知に努める。	事業所内に避難経路や避難場所、感染についての周知事項などを掲示している。	現在は、職員だけの訓練や周知になっているため、保護者や利用者のさんかも考えた取り組みにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」尾張旭校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

48

回収数

38

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	36	1	1	0	隣の声が聞こえる。	個室は全部、固定バーテーションで仕切られており構造上、上部を塞いでの仕切りは不可のため、今後対策を考えてい
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	35	1	0	2		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	6	0	0	2階にあるため階段を使う。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35	2	1	0	狭い。	全室、固定バーテーションで区切られて完全個室になっており、広さも規定を十分満たしているが狭いと感じる部分は事業所内で検討していく。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	35	2	1	0	先生によってばらつきがある	指導員の質によりばらつきがあるため、指導員の質と支援内容の向上に努めてい
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	3	0	1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	34	3	0	1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	6	1	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	33	4	0	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	33	2	0	3	お楽しみとして工作などを取り入れてくれるので、楽しい様子。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	5	20	9	無くて良いです。	地域の交流や活動は実施していないため、今後は実施の機会を考慮して取り組んで行けるようにする。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37	1	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32	4	0	2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	3	8	12		家族支援にて個々の相談の機会はあるが、ペアトレとして行っていない。今後は研修や情報提供の機会を検討してい
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	32	6	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	7	3	3		フィードバック時に指導員とは別に保護者と話をしたり家族支援として相談や助言を行っているが、行き届いていないのであれば、広げていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	33	4	1	0		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	5	13	11		年間を通して数回のイベントを開催している。兄弟や知人の参加も5人が少数にとどまっている。声掛けをしっかりと行きたい。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	3	0	3	相談したことがない。 相談したら、直ぐに対応してくれた。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	7	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	4	7	5	ホームページ、SNSを見ていない。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	33	2	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	7	2	6		事業所内に掲示しているが説明などは行っていない。感染を想定しての訓練は1年に1回程度、行っているが職員のみ。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	5	3	13	1回だけ行った。	事業所内に避難経路などは必要な掲示物として明確にしている。訓練は職員のみでの実施になっている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	27	5	1	5		利用者の安全には十分に注意し指導員にも周知しているが、更に徹底していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	8	1	9	事故などはない。	発作などによる救急搬送や自己の対応は速やかに保護者に連絡をし、連携して行っている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35	3	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35	2	1	0		楽しみにできない利用者があるのであれば原因追及を行い、職員全員で考えていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	36	0	2	0		満足して頂いていない利用者があるのであれば、支援の内容を振り返り、検討していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」尾張旭校				公表日	2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		適切に運営されている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切に配置されている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		事業所が2階にあるため、どうしても階段を使用することになる。 電気設備が暗く、保護者からクレームも頂いているので、12月に電気工事実施予定。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		個別支援スペースと共有スペースが有り、支援と運動や待合などの空間を設置している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		全て個別支援スペースにて支援を行っている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		モニタリング、担当者会議、計画作成と児発管、指導員と相談検討しながら進めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		管理者より指導員に共有。反省事項の検討、改善を行っている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日、ミーティング実施しており、利用者、業務に付いての意見を出し、検討している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		評価表を集計後、職員に共有し意見について反省と改善を話し合い、事業所内に掲示している。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		各研修に可能な限り参加し、支援の質の向上とコンプライアンスの周知に努めている。			
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援終了後のフィードバック時に保護者に指導員より説明している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		6ヶ月に1回のモニタリングを行い、保護者の要望、利用者への支援内容を計画書に反映させている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管は6ヶ月に1回のモニタリングを行い、保護者の要望、利用者への支援内容を職員間で確認検討しており、計画書に反映させている。モニタリングのみでなく随時、保護者と相談、話しがで			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員は何時でも個別支援計画書を確認できる環境にあり、計画に沿った支援を行っている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		適時、確認している。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		利用者の特性に沿った支援内容、家族支援に基づき保護者や関係機関との連携を図り、必要な項目を計画書に載せている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		ミーティング実施時に検討している。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		ミーティング実施時に検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		通常は個別支援のため、小集団はイベント時に行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		ミーティング実施時に検討している。 指導員の変更等適時、臨機応変の行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	ミーティング実施の際、利用者の共有事項として確認しているが、毎日ではない。	公休もあり、全員が出勤する日も限られており、今後は共有方法を検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		ミーティング実施時に確認、必要事項を検討している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		適切に行われ、更新させている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		『本人支援』『家族支援』『移行支援』『地域支援・地域連携』を考慮し、計画書に反映させ適切に組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		教材の種類や順番等、利用者の意見を聞き、自己決定を大切にしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		必ず、児発管と担当指導員が参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必用に応じて、関係機関と連携し整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		家庭連携として関係機関に訪問し連携を図り、適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		必要事項を適切に提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		発達支援センターから利用者の紹介を受けしており、連携しながら行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		現在は機会はない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		案内に沿って必ず、参加している。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		保護者の要望、利用者への支援内容を計画書に反映させている。モニタリングのみでなく随時、保護者と相談、話しができる環境を整え、指導員はフィードバック時に説明し、理解を得ている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		現在は機会はないため、今後は検討していきたい。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明している。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		利用者の意見や様子を指導員より随時確認し、モニタリング時に保護者の要望や意見を確認。計画書に反映させている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		個別支援計画書に確認、同委のサインを頂いている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		家庭連携の観点から事業所内相談などを必要時に行い助言を行っており、内容を反映させて支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	3	季節によりイベントを行っており、その際は保護者や兄弟も参加している。年に数回しかなく、交流自体は少ない。	季節によりイベント回数を増やしたり交流の機会を増やしていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情発生時は速やかに管理者が対応し、適切に解決している。 苦情報告書を作成し、記録に残している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的にHPやブログの更新、発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		鍵付きロッカーに常に収納しており、鍵の保管も留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		利用者の特性や保護者の意向を尊重し、配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		現在は招待する機会を設けていない	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルは各項目整備させており毎月、テーマに沿った訓練を実施、周知。議事録に残している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを作成し、テーマに沿った訓練を毎月行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		対象利用者もおり、確認、周知できている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		食事は提供していない。 契約時にフェイスシートに必要事項を記入して頂く。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画は作成しており、安全に支援を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全計画は作成しており、契約時に避難場所などの周知をしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		必用事案があった場合に書類を作成し、職員全員に周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		本部より定期的に研修が行われ、適切に対応している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		本部より定期的に研修が行われており、契約時に説明を行ったうえで対象利用者には個別に説明を行っている。		